

身近な施設でカラマツ材が活用されています

乾燥技術の進歩により「ヤニ」「狂い」などの欠点が克服され、建築材料として活用されています。経年変化により表面の「赤み」や「風合い」を楽しむことができます



外観



内観

川上村立川上中学校

川上村産のカラマツ材で造られました。将来を担う生徒が学び、村民が集う場として利用されています（2008年7月竣工）

20~40 mm の厚さのカラマツ板材を張り合わせた集成材が、構造材に使用されています



外観



手刻み



墨付け



室内

カラマツ材の住宅（南相木村）

カラマツの無垢材を住宅に使う取組みが行われています

カラマツ材の床固工

約 30 年経ても土砂を捕捉し森林を保全しています



南牧村 広瀬地帯

土木材料としてのカラマツ材

杭丸太は、都市部の「軟弱地盤の支持杭」や港湾開発での「係留杭」（長尺材）として、欠かせない土木資材となっています



港湾用の長尺杭材 約 16m



長尺杭材の敷設

【編集・発行】長野県佐久地域振興局林務課

〒385-8533 佐久市跡部 65-1 長野県佐久合同庁舎内 電話 0267-63-3154 ファクシミリ 0267-63-3195
HP アドレス <https://www.pref.nagano.lg.jp/> e-mail sakuchi-rimmu@pref.nagano.lg.jp